

ICT教育推進ガイドライン 令和5年度改訂予定

個別最適な学びの実現はもとより、感染症の拡大や自然災害の発生等の緊急時においても、ICTの活用により子供たちの学びが保障されるように、県内全ての公立学校で1人1台端末が活用されています。

愛媛県教育委員会は令和3年3月に、小学校から高等学校まで見通した体系的で質の高いICT教育プログラムの開発や教員の実践的なICTに関する研修の充実を図ることを目的として、「ICT教育推進ガイドライン」を策定しました。このガイドラインでは、令和5年度までに達成すべき目標や児童生徒・教員が身に付けるべきICT

活用スキルの指標を設定しています。今年度は、3か年計画の最終年次を迎えており、これまでの成果や課題を踏まえ、各市町教育委員会と連携しながらガイドラインの改訂の準備を進めています。



ICTで『つながる』えひめの学び

ICTは、子供にとっては「文房具」の一つとして、教員にとっては「教具」の一つとして、「一斉学習」「個別学習」「協働学習」など、授業をはじめ、学校生活の様々な場面で活用されています。

【 子供と教員がつながる 】

健康観察での活用

子供たちが1人1台端末で回答する健康観察は、教員と子供の新しいカタチの「つながり」を生み出します。子供の回答結果を、学級担任や養護教諭をはじめ、学校全体で共有することで、「〇〇先生、□□さんが最近よく『おなかが痛い』と答えているけれど、どんな様子？私からも声を掛けてみようか。」など、多くの教員が一人一人の子供理解を深め、連携しながら関わることができます。「チーム学校」として、機を逃さず個々に関わることで、多面的でより丁寧な指導や支援となり、児童生徒一人一人の安心感につながります。

要な学びに気づき、基本的な問題を再確認したり、より発展的な問題に挑戦したりするなど、個別最適な学びにつなげることができます。従来の形にこだわるのではなく、その目的を達成するためにより良い形に変えるということです。

ぜひ、子供たちの確実な学びの実感につなげるとともに、各教科等の本質に迫る活用を工夫してください。その上で、良い悪いの意見をお寄せください。先生方とともにE I L Sをより良いシステムへと育てていきたいと思いをします。

現在、E I L Sには、I C Tの特長（動画や音声）を活かした問題をコンテンツバンクで共有しており、約 800 教材、約 1 万問が利用可能です。児童生徒の実態に応じて問題を改編して利用することもできます。また、電子版読書通帳である「みきゃん通帳」アプリを搭載しています。本アプリは、本県の課題である読書活動の推進及び知的好奇心の向上を図ることを目的に県独自に開発したものです。図書裏側に記載されている、国際標準図書番号 I S B Nコードを端末のカメラで読み込むことにより、書籍名、作者名、総ページ数が自動登録されます。また、学年別ランキング表示機能を搭載しており、愛媛県内の学年別おすすめ図書が瞬時に表示されます。さらに、書評機能を搭載しており、児童生徒は読書後の感想等をシステム内にアップすることができます。中学校では、英語の授業中に読んだ本の書評を、英語で記載させる取組も報告されています。本アプリを効果的に活用し、本県の課題である読書活動を推進していきたいと思いをします。

先生方の豊かな発想力による活用が推進されることで、さらに子供の個別最適な学びを実現する I C Tの活用につながります。

1人1台端末の導入以降、I C TだからできることやI C T活用のよさを知るとともに、人と人が対面しているからこそできることのよさにも、改めて気付かされました。今後も、これまで培われてきた愛媛教育のよさとI C Tの活用による教育のベストミックスを図り、愛媛の子供たちが持続可能な社会の創り手となる資質・能力を備え、予測が難しい未来社会を自立的に生きることができるよう、更なる学校教育の質の保証・向上を目指していきましょう。